

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解する力 観察・実験の事象や結果を分析して解釈し、表現する力	

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 水溶液の単元で、基本的な計算やグラフの読み取りができない生徒が多かった。ア 授業で得た学びを応用できず、異なる角度から考えることを課題とする生徒が多く見られる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> フックの法則、地震の小単元において、基本的な計算方法やグラフから必要な情報を読み取る方法を確認し、演習を充実させる。ア 一つの課題について基礎にとどまらず、日常で使われている例や応用的な内容を取り上げ応用力を養う。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 10月、2月 毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の結果を表にまとめて、その表からグラフを作成し、必要な情報を読み取る力を身につけた。 問題演習を通して、基礎基本から思考問題まで取り組み、学力を定着させた。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 計算問題や化学反応式の問題などに課題を感じている生徒が多く、理解が十分とは言えない。ア 事象や結果について前後の事象とのかかわりが理解できず、実験の結果をもとに考察することが苦手な生徒が一定数いる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応式を班で考えさせて書かせることや、計算問題を繰り返し行うなど、演習を充実させる。ア 授業ごとに振り返りを行い、実験の結果を班で話し合わせ、考察する力を付ける。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 6月、11月 毎時間 	<ul style="list-style-type: none"> 計算問題等を班で考えさせたり、練習問題に繰り返し取り組ませることで、多少理解が深まった。 実験の考察を班で話し合わせることで、考察が深まった。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な概念や原理・法則を理解する力はある程度ついているが、学習したことを活用する力に課題が見られる。ア 実験の結果から考察し、文章で表現する力に課題が見られる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な原理や法則を用いて考える問いかけをし、理解を定着させて応用力を身につける。ア 実験や観察の結果から、課題と結び付けて何がわかるかを考えさせる習慣を付け、考察し文章で表現する力を養う。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 毎単元 毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が提出したレポートに対して、問いかけの言葉を記入して返却し考えを深めさせ、再度文章で表現させた。学習したことを活用する力については、繰り返し学習を通して定着させた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>1年→タブレットを使用した調べ学習、話し合い活動を積極的に取り入れる。【重点:個別、協働】</p> <p>2年→各班の結果をタブレット端末で共有し、理解を深める。実験の際にタブレット端末で撮影し、結果を共有しながら話し合い、班で考察を行う。【重点:協働】</p> <p>3年→観察や実験において個人で予想したことについて話を通して共有し、グループで考察したことをタブレット端末を活用してラス全体で共有し、個人で振り返りを行う。【重点:個別、協働】</p>	<p>1年→授業の目的を確認して、振り返りをする。必要に応じて話し合い活動を取り入れる。</p> <p>2年→毎時間、授業の流れやめあてを明確にして見通しをもたせ、小単元ごとに問題演習、話し合いを行う。</p> <p>3年→単元の学習前に単元全体の流れの見通しをもちながら、学習前の既習知識や疑問に思ったことと、学習後に考えたことを比較し、今後の学習や生活に活かすための振り返りを行う。</p>